

二次評価

資料 2-2

評価区分	評価項目	評価内容	重要度配点理由	評価視点	配点	重要度	評価	評価点	
自然災害等への影響	地形勾配	地形勾配	造成形状により対策が可能であり重要度は低い。	急勾配、起伏が険しい勾配の場合(-)	10	2			
		地すべり・大規模崩壊地跡	災害履歴がある場合は、再発の可能性が高くなるため重要度は高い。	地すべり地形、大規模崩壊地が確認できる場合(-)		4			
		活断層・リニアメント	活断層による直下型地震が発生した場合、安全性の確保が困難であるため重要度は高い。	地形の不安定、リニアメントのずれが確認される場合(-)		4			
自然環境保全への影響	周辺土地状況(自然)	有効利用の程度	希少動植物と比較し、保全対策等が容易であることから重要度は低い。	山林や農地として有効利用されている土地の割合が多い場合(-)	15	5			
		自然環境保全(希少野生動植物)への影響	希少動植物が確認された場合、保全対策が必要になったり、保全対策が困難な場合は、計画地の変更が必要になるなど重要度は高い。	自然環境保全(希少野生動植物(県Ⅰ類)含む)に影響する可能性がある場合(-) 県Ⅰ類>県Ⅱ類>県準絶>県希>県注>県未		10			
生活環境への影響	景観の変化	景観の変化	ひとつの評価内容により評価する。	立地により周辺地域からの景観に影響がある場合(-)	10	10			
		周辺土地状況(生活)	生活圏との近接度	生活圏と近接する場合には、住民生活(安全・安心)へ影響を与える可能性が高いため重要度は高い。	生活圏の状況として密な場合(-)	15	6		
			地域の特色	地域の特色を阻害する可能性があるが、他と比較して実害は少ないため重要度は低い。	地域の特色が損なわれる可能性がある場合(-)		3		
	車両等通行による影響	耕作地との近接度	耕作地と近接する場合には、商品価値に対する安全・安心に影響を与える可能性があるため重要度は高い。	耕作としての生活圏が大きい場合(-)	10	6			
		アクセスルートの数	道路状況と比較すると影響は少ないため重要度は低い。	アクセス道路が限定される場合(-)		3			
アクセス道路の状況	道路状況により影響の程度が大きく異なることから重要度は高い。	道路状況(幅員が狭い(-)、歩道無し(-)、沿線住宅多い(-)、交通量多い(-))	7						
水源への影響	利水の影響	未給水住宅	井戸水への悪影響が発生した場合、直接人体への影響が発生する恐れがあることから重要度は高い。	周辺の未給水住宅の割合が多い場合(-)	15	8			
		農業への利水	農業への悪影響が発生した場合も影響は大きいですが、直接人体へ影響する飲料水と比較すると重要度はやや低い。	農業への利水が多い場合(-)		7			
	放流先の水路・河川の状況	水路・河川の状況	ひとつの評価内容により評価する。	現状(水量、断面、整備状況等)として放流に問題がある場合(-)	10	10			
建設運営コストへの配慮	候補地土地利用	候補地の土地利用状況	ひとつの評価内容により評価する。	手が加えられている土地の割合が多い場合(-)	3	3			
	施設立地への障害の有無	施設立地への障害	ひとつの評価内容により評価する。	大規模な撤去または移転すべき工作物がある場合(-)	3	3			
	造成規模の確保	計画規模の確保	計画規模・施設配置を1項目として評価した方が良い。	計画規模の確保や施設配置が困難な場合(-)	3	3			
		施設配置							
	アクセス道路等	2車線道路へのアクセス性	ひとつの評価内容により評価する。	2車線道路へのアクセス性(拡幅延長が長い(-)急勾配(-)、取付け道路が長い(-))	3	3			
ライフラインの確保	ライフラインの確保	ひとつの評価内容により評価する。	ライフラインの確保が困難な場合(-)	3	3				
					評価点計	/ 100			

<b>社会的要因(特記事項)</b>
【地区情報】
【特記事項】

社会的要因 所見
A or B A評価判定 + 20

<b>所見</b>
【自然災害等への影響】
【自然環境保全への影響】
【生活環境への影響】
【水源への影響】
【建設運営コストへの配慮】
【総合評価】

<b>候補地評価判定理由</b>

評 価
A or B